日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会（sine１９９４）

第２４期･7巻　２０１８年１０月号　ＮＯ．２０７

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

山行ＮＯ．１８０２
２０１８．０９．２３
阿弥陀岳・南稜

秋色漂う

１０月度例会報告

２０１８．０９．３０　　生協２Ｆ　　１５：３０

１．山行報告

ＮＯ．１８０４　　１０月０４日（木）　　瑞牆山・カンマンボロンコース
同下メンバーに塚田加わる

ＮＯ．１８０３　　１０月０３日（水）　　天狗岳・西尾根　後藤・加藤・峰田・星・合谷
０９月３０日　　例会

ＮＯ．１８０２　　０９月２３日（日）　　八ッ・阿弥陀岳南稜～中央稜
０９月２２日（土）　　西丹沢・権現岳　水口・ほか４名
０９月１５日（土）～１６日（日）
全国ハイキング集会＝伊豆長岡･いずみ荘　　約８０名
０９月１２日（水）　山中湖・三国山　峰田、ほか
０９月１１日（火）　富士市＝山の歌の練習

ＮＯ．１８０１　　０９月０６日（木）　宝永山２３５２ｍ峰　後藤・加藤
０９月０１日（土）～０４日（火）
白神山地・白神岳　峰田（単独）
ほか、勝又陽・薫が、西岳～編笠山、御坂・黒岳
に上ったが詳細は不明

２．今後予定（備忘の意味で個人行事も含みました）

１０月

１０月１０日（水）　　伊豆巡礼
１０月１１日（木）　　甲斐駒・黒戸尾根往復＝個人山行（加藤・塚田・ほか２名）
～１２日（金）
１０月１３日（土）　　アルパイン＝赤岳・県界尾根～真教寺尾根（後藤・加藤）
～１４日（日）
１０月１７日（水）　　まったりハイキング＝乾徳山
１０月２４日（水）　　伊豆ウオーク
１０月２５日（木）　　秘湯の会＝本沢温泉
～２６日（金）
１０月２７日（土）　　ハイクの日＝山梨方面
１０月２８日（日）　　安全登山講習会「山での病気」＝清水市
水口・峰田・星・伊藤・米山（まったり）・大島（日本山岳会）
１０月３０日（火）
～１１月２日（木）　　四国遠征＝石槌山～瓶ヶ森

３．会組織

会計＝峰田・・・・・会費、集めています。１１月中にお願い致します。
高岡・井上・小松・松本・内藤・・・・・未納

４．新入会員

塚田悠斗（２５歳）・・・よろしくお願い致します。

５．会創立２５周年記念山行

１９９４～２０１９、来年２５周年。国内・海外で記念登山と同窓会を開催したい

全国ハイキング交流集会in伊豆・長岡 報告

報告 斉藤富夫

伊豆・長岡『いずみ荘』で、全国ハイキング交流集会が9月15日（土）～16日（日）に開催され、北海道や九州福岡県など全国各地から宿泊・日帰りを含め90名が参加した。

記念講演は、元北大教授で地球物理学者島村英紀先生の「火山の恵みとその危険性」。世界の陸地の0.25%の日本に、世界の1／7もの火山が集中している事。マグニチュード6を超える世界の大地震の22パーセントが日本で起きている。

島村先生の講演

日本には4つのプレートが集中していて海洋プレートが日本列島の地中に潜って行った時に、深さ90～130kmのところでプレートが溶けてマグマが生まれ、マグマ溜まりを造り最終的に噴火する。

2014年に起きた御嶽山の噴火は60名という犠牲者を出したが規模からいえばごく小さいもので、19世紀までの日本では、火山灰や噴石の合計で御嶽山噴火の4，000倍もの大きな噴火が100年に4～6回発生している。

20世紀に入って2度大噴火は起きているが、ここ100年は起きていない。

今世紀中に大噴火が起きても不思議ではないと考えている地球物理学者は少なくない。

甚大な被害をもたらす地震や噴火についての予知は、天気予報の様に「大気の運動方程式」がわかってない事やアメダスなどの様な豊富なデーターが無い事などで難しい。

火山の恵みについては、自然を愛で、温泉を楽しみ、四季を味わえるのも火山地形が造ってきた。 国立・国定公園の多くは火山地形がつくったもの。 綺麗で豊富な水も火山によってもたらされたもので、生活や工業などいろいろ使われている。 と話をされた。

その後、3会場に分かれて分散会がもたれ、会員を増やす取り組みや労山の組織強化等についての話し合いがもたれた。

夕食を兼ての交流会では、各県からの参加者紹介の後、静岡県連の歌を作曲した後藤氏（レイホー）の指揮、山崎氏（焼津山の会）のアコーデイオン演奏で、県連20名による合唱で場を盛り上げた。

16日は、下記3つの交流ハイクを楽しんだ。 当初予定の城山ハイクは中止した。

①葛城山ハイクは、L鈴木和子さん（駿東）SL伊藤節子さん（あさぎり）17名の参加で実施。

②丹那断層と伊豆ジオは、清野博氏のガイドで28名で実施。

③韮山歴史ハイクは、柳沢正良氏のガイドで18名で実施された。

あさぎり参加者 ≪15～16日≫ 福原勝、伊藤、村上恵 ≪15～16日朝≫ 斉藤

≪15日≫ 平柳 ≪16日≫ 佐々、佐野吉、佐野光

（あさぎり山の会会報 ＮＯ．３０４から転載しました）

夕食風会

後藤の指揮で「静岡県連の歌」を唄う

島村先生の講演会

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　ＴＧ

山行NO　　ＮＯ．１８０２
日　時　　２０１８．０９．２３（日・晴れ）
山　域　　阿弥陀岳（２８０５ｍ）南稜～中央稜
コース　　舟山十字路発５：４５－キノコ道―南稜―立場山７：５５－青ナギ８：１０－無名峰８：４４－三峰ルンゼ９：２０－阿弥陀岳１０：０５～３０－中央稜―下の沢１２：００（昼食）～３０－舟山十字路１３：２３
標高差　　上り　舟山十字路約１６２０ｍ～阿弥陀岳２８０５ｍ＝約１１８５ｍ
　　下り　　〃

久しぶりの南稜に痺れた

舟山十字路発５：４５。物凄い車。ほとんどが「キノコ採り」。
キノコ採りのオジサンと出発。
最近は人が多くて採れないという。「両手くらい」と聞けば、「片手がいいところ」だった。ただ、実際は殆どゼロ。

キノコおじさん

オジサンに南稜の近道を教えて貰った。その道は、キノコ道だ。
堰堤の下を通り、急登をこなすと南稜に出た。本来のルートに比べると三分の一だろう。

山には、「チンチロ・チンチロ」と鈴の音が響く。キノコ採りだ。
何処かのオジサンが上から降りて来た。聞けば、「全く駄目」と言いながらも、「松茸」を一本見せてくれた。

ここで採れるのは本来「栂茸」（つがだけ）。しかし、オジサンのは本当の「松茸」だった。
イイ香りが漂った。「松茸ご飯」ですかと聞いたら、「お吸い物」がイイと答えた。

気持ち良い南稜の登山道を上る。
全く荒れていない。
何故、こんなにキレイなのか不思議だ。

強いていえば、バリエーション故、登山者が少ないことか。
周りは栂の森が延々と続く。
目障りなのは、栂茸盗難防止のワイヤーがあることだ。

松茸

下を見ながら上っていて、ハッと気が付いたら、何処かの
オジサンが立っていた。朝、舟山十字路で駐車場を指示して
くれた方だった。
我々より早く出ていたが追いついた。休憩中で何かを食べていた。
挨拶をして年齢を確認したら、「１９４０年生まれ」だった。
私よりかなり多かった。

聞けば、本宅は藤沢で別荘がこちらにあるそうだ。南稜はいつも上っているという。
しかも単独である。登山は６０歳からという。
失礼だがこの年齢で、よくやるな～と思った。三峰のルンゼは
ザイルなしで上るのか？？そこまでは聞かなかった。

Ｏさん

更に聞くと一時、長泉に住んでいたことがあったそうだ。
お名前はＯさんだった。前後しながら再び上り出す。立場山を過ぎ、青ナギを越えて無名峰に着いた。阿弥陀岳が大迫力で迫る。天気は良く秋空が高かった。
ここに女性１名を含む、若者３名いた。

南稜上部

彼らは三峰まで行くと、ルンゼでなく、正面の岩尾根で遊んでいた。
ただ、最後まで上る気はないようだ。そんな訳で我々が今日のトップに立った。
今日の南稜は、３パーティー・６名だった。

三峰で遊ぶ若い衆

三峰のルンゼに着いた。
水が少し流れていた。状態が良いのでザイルは出さなかった。
もう少し季節が進むと、ベルグラ（氷）が張り悪くなる。
ルンゼは、火山特有の岩。一枚岩にこぶし大の岩がボコボコと出ている。
岩は長年浸食され、しっかりしているので安定している。
超快適に上る。最近、岩らしい岩をやっていないので、
思わずハイテンションになった。

三峰ルンゼ

ルンゼを抜けて再び南稜に出て、安定した所で大休憩。目を凝らすと
赤岳と中岳頂上に登山者が溢れていた。皆、山が大好きなのだ。
そのうち、先ほどの若い衆が三名上って来た。
聞けば、３名は別々の所に住み、山行時、道の駅とかで集合し来るそうだ。

所属山岳会はなし。特に必要性は感じていないようだ。そのような
時代なのか。下山後、会った諏訪の若い衆も無所属で、山行時だけ
仲間と上るという。

我々の時代は下山後、飲んだり馬鹿ッ話を大事にしたが、現代はそのような
しがらみは嫌われるかも知れない。これでは、山岳会がいくら声を大に
組織拡大・拡大と叫んでも、なかなか入会者は増えない。
理屈ではなく、そんな時代なのだと感じた。

赤岳と中岳

若い衆三人とテラスで休んでいると、Ｏさんもやって来た。
厳しい上りで足が震えていたというが、気が付かなかった。
若い衆にもＯさんの年齢を伝えると驚いた。

テラスからひと上りで阿弥陀岳着。約４時間半でまあまあ。
南稜は直接頂上に上れるので気分はサイコー。
好天もあいまって、多くの登山者で賑わっている。
南稜出口にアベック（古い！！）が座っていた。突然現れた闖入者に驚いた様子。
誰かが「南稜・南稜」といっていた。
頂上には阿弥陀様が祀ってある。手を合わせ「世界平和・安全登山・自然保護」に深謝。

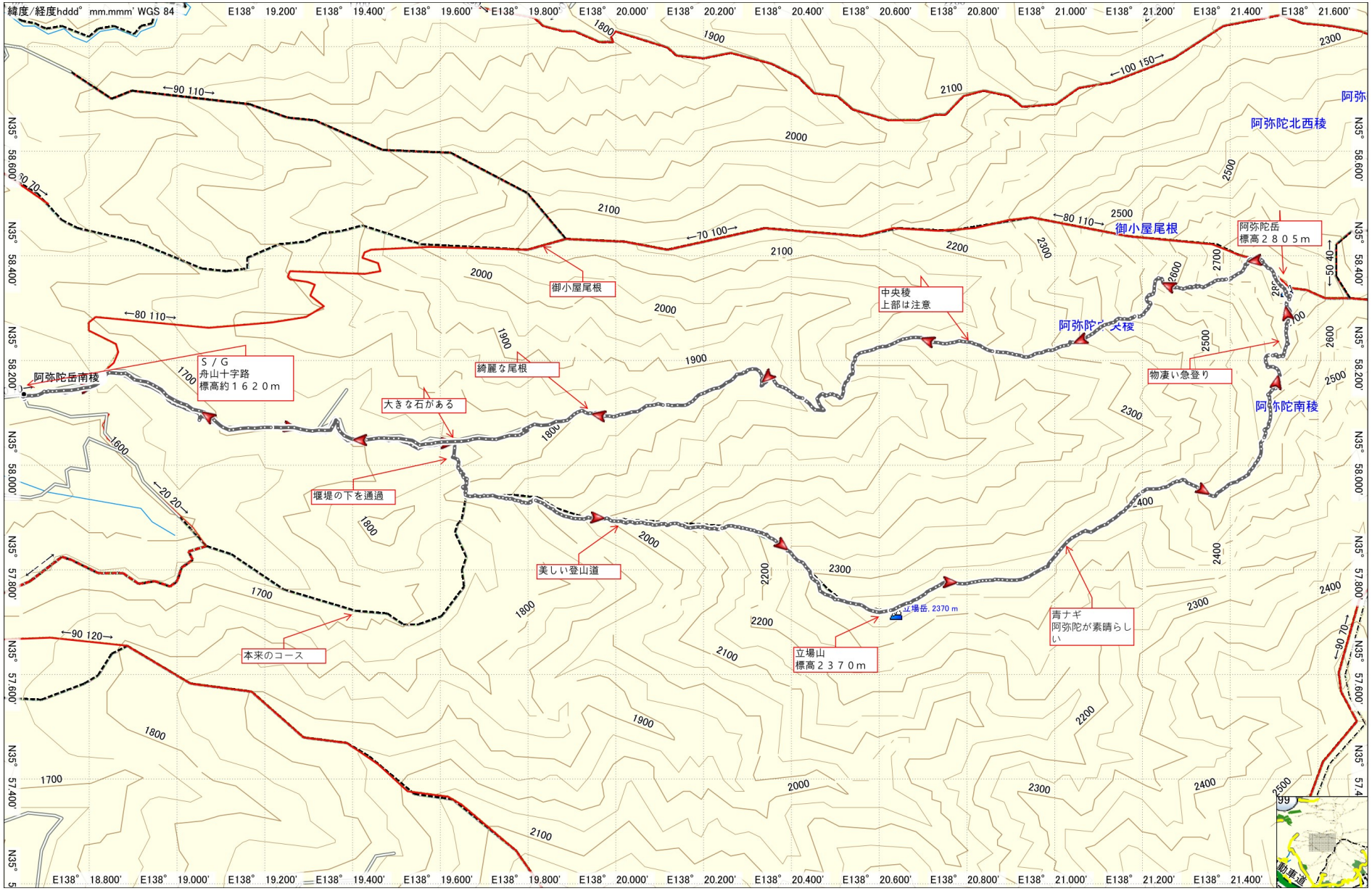
Ｏさんもやって来て一緒に休憩。軽く食べる。御小屋尾根から沢山上って来る。
下山は、御小屋にするか、中央稜にするか考えた。
キノコを採るなら御小屋尾根。スッキリ下るなら中央稜。
結局、中央稜を下った。上部は栂茸の採取地といわれる。
下って行くと、下から何人か上って来た。一人はキノコ
採りだったが、収穫はナシといった。

中央稜の上部は可なり急。半分から歩き易い道。下り切って沢で昼食。
静かでイイ。駐車場に着くと、諏訪の方が、ジゴボウ（鼻猪口）を沢山採って来た。
御小屋尾根を下ったそうだ。やっぱりね・・・・だった。
今回もイイ山だった、ハッは近くてイイ山。有難いデス。

中央に若い衆が三名見える（赤いザック）

バックは権現岳

阿弥陀岳頂上



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2018/09/24 5:32:26

0 m 150 m 300 m 450 m 600 m

GARMIN.

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　ＧＭ

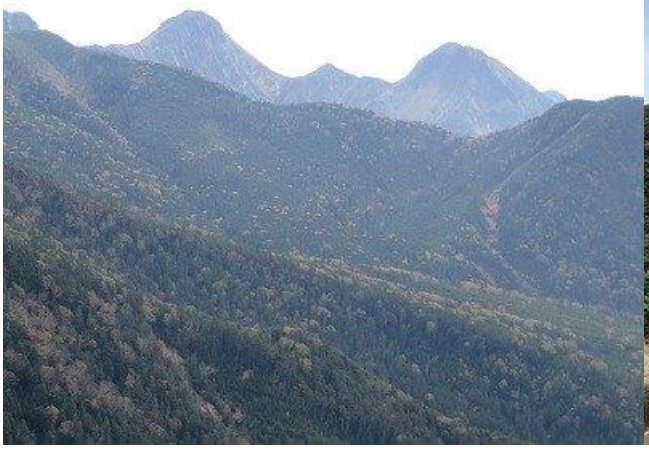
山行番　　ＮＯ．１８１０
日　時　　２０１８．１０．３（水）晴れ
山　域　　天狗岳（２６４６ｍ）西尾根
コース　　唐沢鉱泉９：３４－西尾根１０：２５－第２展望台１１：４２－西天狗岳１２：１８～５７－東天狗岳１３：３０－中山峠１４：０６－黒百合ヒュッテ１４：１１－唐沢鉱泉１５：５９－尖石温泉―諏訪南ＩＣ－須玉ＩＣ－みずがき山自然公園１９：００（泊）
標高差　　上り＝唐沢鉱泉１８１５ｍ～西天狗岳２６４６ｍ＝約８３１ｍ
　　下り＝　　〃
参加者　　ＧＴ（L）、ＫＨ、ＨＴ、ＭＭ、ＧＭ＝５名

朝６時に長泉を出発。富士経由で唐沢鉱泉に向かった。
途中、精進湖を通る道路が通行止めで、本栖湖～Ｒ５２に変更したが、９時半に唐沢鉱泉に到着。
最近は台風が多くて天候の悪い日が多いが、今日は晴天で、スタート地点は標高１８６０ｍのためか、涼しく心地よい。

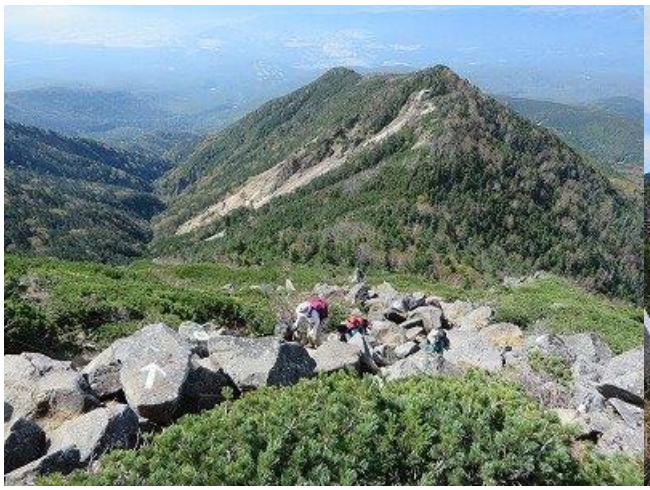
唐沢を渡り、すぐに天狗岳西尾根に向かう急登を登り始める。
岩の多い急登ではあるが、涼しいせいかそれほどきつさ感じなかった。
しばらく登ると樹林帯に入り、枯尾の峰との分岐路（西尾根）に到着。
そこから樹林帯を登っていくと、先日の台風で倒れた倒木等で、かなり登山道が荒れていた。

さらに登っていくと突然視界が開け、すぐに第一展望台に到着。
天気もよく３６０°八ヶ岳の大パノラマが楽しめ、素晴らしい風景に大満足。

さらに西尾根を進んでいき、第二展望台に到着。ここで、全員での記念写真。

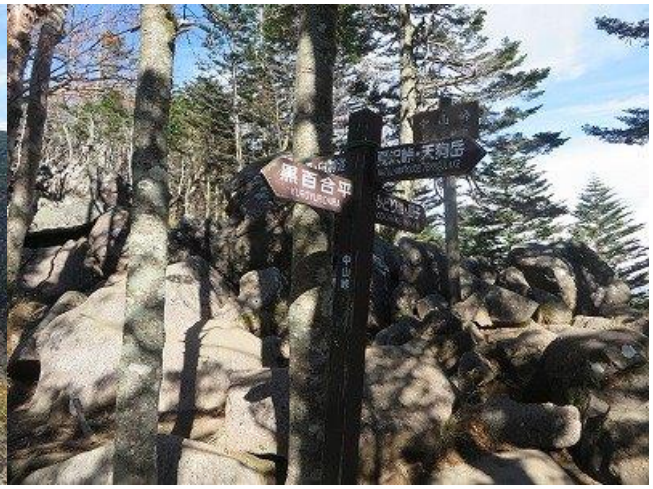


第二展望台から西天狗岳への最後の登りを登ると、西天狗岳頂上（２６４６ｍ）に到着。
ここで、昼食。天気も良くて、ビールが美味かった。

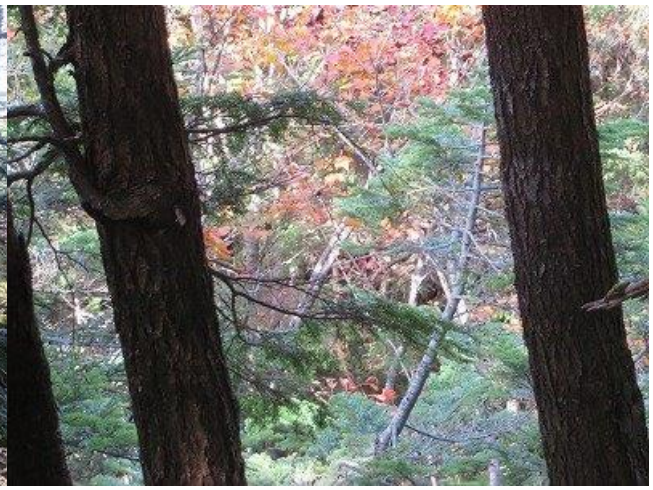


西天狗のコル（鞍部）に NHK のカメラマンの人達に遭遇。
新人に写真の撮り方を OJT しているそうで、こんな所で新人教育するとは少し驚きだった。

さらに下って、中山峠、黒百合ヒュッテに到着。
小屋は少し寂れている感じがしたが、生ビールやおはぎを売っていた。



黒百合ヒュッテから渋の湯温泉分岐までの下りが、荒れた大変な悪路（湿った角の取れた岩や小石の上に倒木が覆いかぶっている）で、足が疲れてヘロヘロになってしまったが、紅葉が見れたのが唯一の救いであった。

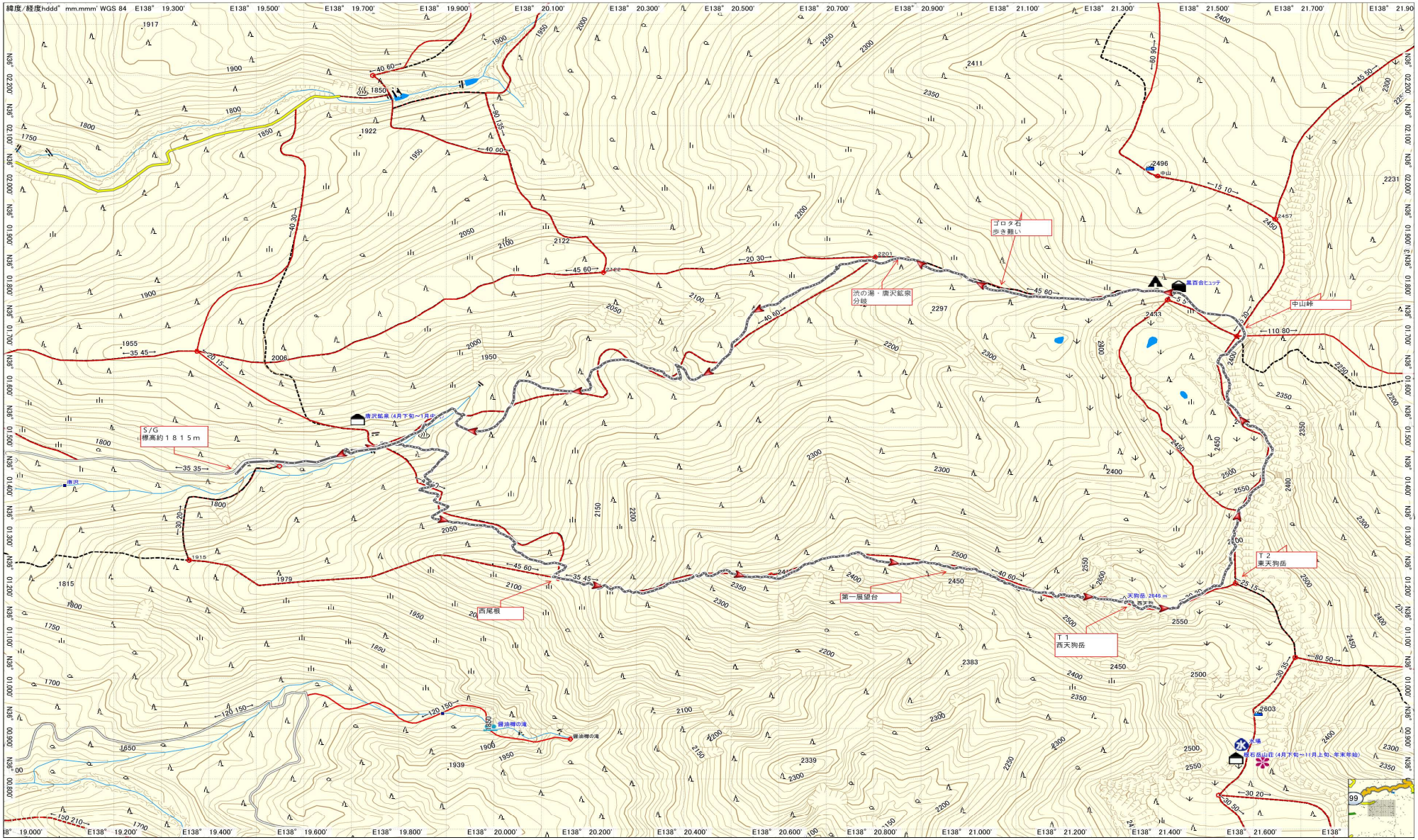


だいぶ、日が落ちかけた頃にやっと唐沢鉱泉に到着。

足はだいぶ疲れたが、全員ケガもなく、天気も良く八ヶ岳の素晴らしい風景を堪能できたので、いい登山でした。

その他の記述（ＧＴ）

１．道路変更コースの本栖湖～Ｒ５２は長くカーブが多い。御坂峠が良い。
２．朝、唐沢鉱泉は台風の影響で停電だった。下山時は、自家発は稼働していた。（通電？？）
３．黒百合ヒュッテで話したパーティーは、唐沢発６：３０。そんなにユックリ歩けるものか？？！！
４．紅葉はマダマダだった。
５．暗くなってからのドライブはナビが無い場合難しい。みずがき山自然公園に行く時、黒森で左折して信州峠に行ってしまった。


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
S/G
標高約１８１５ｍ
唐沢
唐沢鉱泉（4月下旬～11月中）
西尾根
醤油樽の滝
第一展望台
天狗岳, 2646 m
東天狗岳
西天狗岳
ゴロタ石
歩き難い
渋の湯・唐沢鉱泉
分岐
黒百合ヒュッテ
中山峠
中山
大場
横谷峠山荘（4月下旬～11月上旬、年末年始）
Japan Topo 10M Plus V3
2018/10/05 6:34:32
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　ＴＧ

山行NO　　ＮＯ．１８０４
日　時　　２０１８．１０．０３（晴れ・午後小雨）
山　域　　瑞牆山（２２３０ｍ）カンマンボロ・コース
コース　　起床４：４５ーみずがき山自然公園発６：３５ーカンマンボロ・コースーカンマンボロ７：１４ー一般道８：３３ー瑞牆山９：０５～４５—不動滝１０：４２ー屏風岩１１：１４ー林道間違えて引き返す１１：４０ーみずがき山公園１２：１６
標高差　　上り　みずがき山公園約１４７０ｍ～瑞牆山２２３０ｍ＝約７６０ｍ
　　下り　　〃
参加者　　ＧＴ、ＫＨ、ＭＭ、ＨＴ、ＧＭ、ＴＹ（新入会員）

カンマンボロに会いに

カンマンボロンとは、奇妙な呼称だ。梵字（サンスクリット語）で、大日如来・不動明王の意味らしい。
Ｈｐでは、地元の増富小学校ホームページに下記のような記事があります。

『瑞牆山中の岩峰の中に、洞ヶ岩という洞窟のある岩峰があります。この洞窟は奥行約５メートル・幅１５メートル・高さ４０メートルの大きい洞窟です。
その奥に約７メートルの花崗岩の岩盤があり、これに梵字が刻まれています。字は『カンマンボロン』と読むといわれている。
それは大日如来･不動明王の意であるといわれています。昔、弘法大師が霊場選定のために来て、この山の姿を愛しここを霊場とし梵字を刻まれました。
しかし霊場とするには、八百八谷を要したが増富の地では、谷数が不足するためこの地を去っていきました。今も山中に大日岩があり、その背後に不動明王をお祭りしています。』

前夜は、みずがき山自然公園でテント泊。広々とした公園。五月蠅い管理人はいない。
トイレはキレイで最高。いう事なし。夕食を済まし、イッパイやって、新入会員のＴ君を待った。

今回の山行は、当初、稲子湯から天狗岳東面の予定だった。しかし先日、会員のＴＹさんの紹介で御殿場のＴ君（２５歳）が入会した。Ｔ君はサービス業で平日休日が多く登山も平日が中心。
今週の休暇を聞いたら、稲子日程と１日しか変わらなかったので急遽、１日日程をズラし、１日目は天狗岳・西尾根、２日目は、瑞牆山・カンマンボロンコースにしＴ君の歓迎山行とした。
天狗岳下山が遅くなり、夕食を済ませたのが１９：３０。
やがてＴ君が駆け付けた。Ｔ君は勿論、初対面。お酒を飲める方なので軽く交流。１時間ほどやって２０時休んだ。

テントを畳む

翌朝、心配だった雨はなく、高曇りでまあまあの天気だった。
朝食を済ませ、新人にテントを畳んで貰い出発。
公園から周遊道を下り、看板が倒れている所から山に入る。グングン上る。
最初から物凄い上りが続く。台風の影響で落葉と倒木が多い。

カンマンボロン

カンマンボロンの場所が良く分からなかった。
通り過ぎてしまったが、後続の女子が大騒ぎして、心配で戻ったら
そこがカンマンボロンだった。
岩戸を潜って向こう側を覗いたらあった。しかし、前述のように大きな洞窟の壁に
刻まれたものではなかった。
一見、風化した岩の穴のような感じだが、これを本当に弘法大師が刻んだのだろうか。
大昔、こんな所まで弘法大師が上って来たとは、ちょっと考え難い。
因みに、サンスクリット語で大日如来は、下記のように書く。

महावैरोचन　マハーヴァイローチャナ

弘法大師の伝説・伝承は日本中に数多くある。その一つとして覚えておこう。

再び上り出す。頂上まで標高差はさほどないが、兎に角、急な上り。
気温が高く大汗が流れる。
程なく、一般道に出た。公園から約２時間だった。何処かのオジサンが下からやって来た。
女子を待ったが先に行ってくれで、寒いので再登。
頂上には簡単に着いた。先ほどまでガスがあったが、丁度なくなり金峰山などが見えた。
先ほどのオジサンに写真を頼んだ。女子もやって来て空腹を満たす。

瑞牆山

新しい会員のＴ君

幻想的だった

雨がパラパラ。予定より早い。不動滝経由で下山。
比較的歩き易い道が続く。不動滝に夫婦がいた。聞けば、先週は不動沢が大水で渡れなかったという。

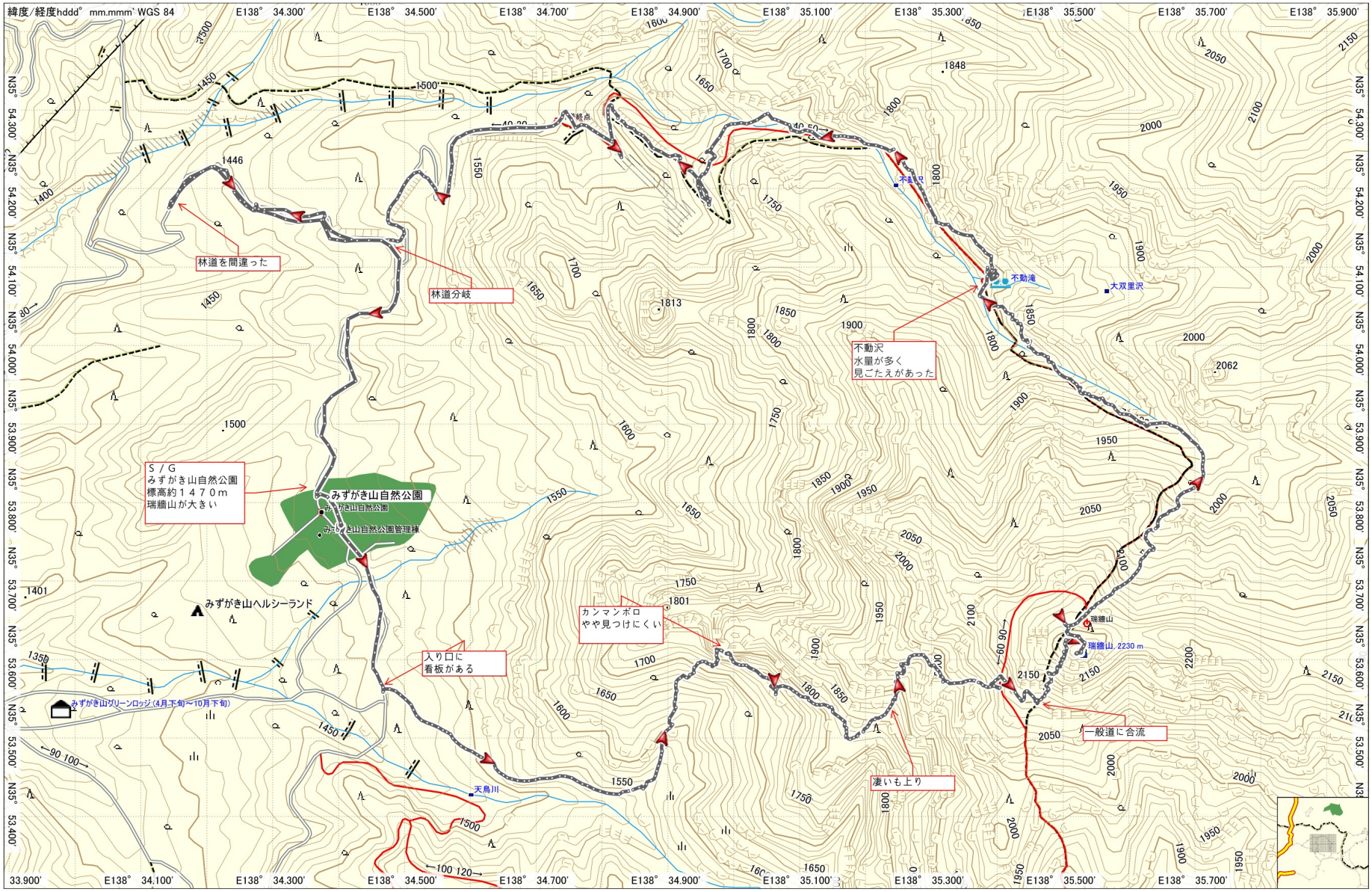
不動滝

滝はこのところの大雨で立派な流れだった。近くに、鼻猪口（ジゴボウ）が沢山あったが、既に大きく開き旬は過ぎていた。
再び不動沢を渡り右岸を下る。途中に屏風岩がある。数人のクライマーが練習中だった。

林道を下る。長い林道が嫌で時々、ショートカットをする。ここに落とし穴があった。
調子に乗ってバンバンカットしたら、地図の林道分岐を見落とし、逆方向の林道を下っていた。
ＧＰＳで確認したら、確かに間違っていた。
ただ、女子はズンズン下ってしまい、結局、黒森上くらいまで下ってしまった。

男子３名は公園に戻り、車で女子を探しに行った。が、見つからない。
地元のオジサンに頼んで軽トラで公園まで運んで貰ったようだ。ひと騒がせな顛末だった。
雨が降って来た。予報通り、午後から雨だった。増冨温泉で汗を流し帰静した。Ｔ君には喜んで貰ったようだ。合流して良かった。

キノコ兄弟



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2018/10/05 6:34:32

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN.

日本勤労者山岳会連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会

会報「れいほう」
第24期 ７巻　　NO.207　　2018/10月号

連絡先　　静岡県駿東郡長泉町下土狩1541-12　徳山荘
090-8956～9990
後藤隆徳

Ｈ　Ｐ　　http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/